

深淵地区自治会 ふらっと座談会

○日 時: 令和6年6月16日(日)
○場 所: 深淵公民館

テーマ: 「誰にとっても気持ち良いゴミ出し」について

【三宝山の不法投棄について】

・三宝山に散歩で行く。不法投棄のゴミが山積みになっているがどうなっているか。
→ 環境対策課: 三宝山は県道で、県有地なので廃棄物は県が処分するとなっている。市も月1回環境パトロールを行っていて把握しており、県に依頼もしている。昔はローリング族がタイヤを捨てるとか、業者が集めたゴミを捨てたりしていたようだが、今の積み上げているゴミは、市内の方が沿線の個人の土地から引き上げて県道沿いに積んでいると聞いている。景観のこともあり、県において今後どうしていくか考えているところ。確かに見苦しいということもあるが、予算のこともあり、なかなか進んでいない状況。

・県側ではなく、市側に捨てられたものでは。
→ 環境対策課: 切り図を見たが、入り組んでいて、はっきりと分かる状態でなく、現場を確認しながら照合する必要があり、時間も要する。観光ルートにもなっているし、目に付くので、県に働きかけをしているところ。

【「誰にとっても気持ち良いゴミ出し」について】

・ゴミ袋に以前は「名前を書いてください」だったが、今は書く必要がなければ、名前を書く欄を無くしてもいいのでは。
→ 環境対策課: ゴミ集積所の管理はそれぞれの地域の方をお願いしている。地域によって、名前を書く、書かないがあり、地域で決めてもらうことになっている。袋の様式としては書く欄を設けているが、書く、書かないは地域で決めていただくことになる。

・名前を記入することの当初の目的は何か。
→ 環境対策課: 当初の目的ははっきりとはわからないが、このゴミは誰のゴミか、残されたゴミは誰のかを明らかにするためのものだったと思われる。

・不適切に置かれたゴミをその人に戻す目的があったと思う。書かなくてもよくなったのはどうしてか。
→ 環境対策課: 地域の中で書いて、黄色いシールを貼って、明らかに誰の分だとわかる状態で再分別を促すこともしている。ただ、行政として書きなさいと指示できるものでもないで、今はそれぞれの地域で運用が違う。名前を書いているいないゴミで分別ができていないことが多いことも承知しているが、今はプライバシーのこともあり、強制して書いてくださいというお願いはしていない。

・名前を書いても書かなくてもいいじゃなく、名前を書くようになっていたので、書いてもらって、誰が持ってきた、誰の分が残っているのかわかるように。ゴミステーションの管理を20年しているが、最初は書いていないゴミがほとんど残っていた。写真を取って回覧で回したりしたが、今は名前を書いてもらっているので残らなくなった。誰かが後始末をしないといけない。市がどうでもいいとなるとどこでも捨てるようになる。残っているゴミを市で回収してくれるならいいが、夏場なら生ごみはウジが湧く。それを誰かが開けて見ないといけない。そんなことをしなくていいように名前を書く自分たちも楽になる。
→ 環境対策課: 地域で管理している方の苦労はわかっている。地域で名前を書くのは引き止めない。ただ、香南市内全部でやるのは今の時代できない状態。

・それはおかしい。本当に困る。役の人は大変。1週間も2週間も残っているゴミがある。
→ 環境対策課: 苦労はわかるが、個人のプライバシーが言われた経緯があり、名前を書かせるのが難しくなったのだと思う。ステーションの管理は基本的に地域をお願いしているが、ゴミの量などにより、回収が難しい状況であれば、環境対策課で対応できる場合もあるので、相談いただきたい。

・市はプライバシーと言いながら、地区で名前を書くか書かないかを決めたらいいとは、どちらを取ったらいいのかわかるか。
→ 環境対策課: 地域で独自に決めていけるものなら、市がダメとは言えない。

・自分たちでできることはするし、できないことは市にお願いして知恵を出してもらってやったらいいと思うが、役所がプライバシーと言うとできなくなる。

・みんなが集まっているので、ここで名前を書きますと決めたらいい。

・自分個人の意見としては名前を書くのは反対。ルールを守らせることが目的で、名前を書くのが目的ではない。名前を書くことを目的とするとギスギスした町内会・自治会になりそうなので、あまりそれはやりたくない。

・今まではずっと名前を書いてきた。この前、名前を書くのが反対という意見が出たのでみんなが迷い出した。市に聞いたら、書かなくていいということだったが、管理している人からすると大変。

・ルールを守れない人、ゴミを分別しない人が名前を書くかということもある。

・理想の話をしてダメ。ルールを守れない人が名前も書かず放っておいたら、その後始末は誰がするのか。ルールを守ることが前提で話をしている訳だから。名前を書いたらルールを守っていない人の分が残るので、それを何回かやって、皆に浸透していったら名前を書かなくてもルールが守れるからいいと思う。理想の話もいいが、現実に残っているゴミがある。誰の分かわかりやすいようにしてもらったら、名前を書くということは責任を持つということと思う。夏などゴミにウジが湧くこともあり、それを世話している。それを考えてほしい。

・この自治会は2つの町内会、深瀬南と深瀬北があり、深瀬北町内会は、同じ方がずっと管理してくれていて、厳しい現状がある。深瀬南町内会は、今まで町内会長が1年交代で担当していて、負荷が大きすぎるということで、今年の4月から高齢者の方が増えているので負荷を減らすために、月番がゴミステーションの当番を月ごとに変わっていきとなった。そういうふうには30何年に1回回ってくる町内会長じゃなくて、月に1回回ってくる月番がやっていたら全員がゴミに対する意識が変わってくるだろうと、それが1番の目的で月番が管理するようにした。自分の意見だが、名前を書くことを目的とすると犯人捜しになってしまうのは、町内会としてあまり良くないのでは。もしかして、ルールを守れないゴミを出した人が認知症なのか、ゴミの分別を全然知らない人か、高知市内から引越して来てそのままゴミを出している人がいるのなら、意識を変えてもらうように投げかけていくことが町内会の役割と自分は考えていた。今日、この場で皆さんの意見を出し合ってもらって、どうなのかと思ってきた。市長・副市長も来られているので、香南市全体のゴミの問題、どこの地区でも同じような問題を抱えていると思うので、どんなふうを考えていくかという市政の考えも聞きたかった。回覧にも書いたが、「誰でも住みやすい香南市」を市政方針としてあげている以上、ギスギスして犯人捜しをすることを目的とするよりも助け合っているような町内会にしていきたいと自分は考えている。

・他地区から通勤途中にゴミを出して行く人が前に結構あって、それは名前を書いてなかったからチェックした。名前を書くようになったら、そういう人がいなくなった。それはいい方法では。1番ひどいのは山田の学生が引越しの時に粗大ゴミを置いて、その時は警察を呼んで調べた。名前がわかってその人に連絡して処分をした。名前を書くことを徹底してからそういうことがなくなった。現実を考えると、名前を書かないのは無理と思う。

・ウジ虫が湧いたゴミを片付ける人の気持ちを考えて。

・いろんな意見が出て、名前を書くという意見が多いように感じるが、2つの町内会がルールも管理の仕方も違う。それぞれで決めてはどうか。1年やって様子を見て、名前を書くほうがいいのか、書かないほうがいいのか総会で話し合ったらどうか。

・深瀬南は4月からゴミの管理が月番制に変わって4月の当番だったが、結果は、プラスチックが2回残っていて、次の可燃ゴミの日に市からもらった袋に分別せずにそのまま入れて出した。火曜のゴミを月曜の夕方から出している分があったが、回収されていて特に問題はなかった。

・今月担当だが、1回だけペットボトルが入っているのが残っていて、汚れていると思って洗って明日出そうと思っている。

・市役所からもらった白い袋に分別せずそのまま入れる方法はどうか。
→ 環境対策課：正直、市役所はそこまで把握できていない。現場の判断に任せている。

・ウジが湧くような臭いものや生ごみのようなものは分別するよりも市役所の袋に、あまり激しいものは別としてそういうやり方でやっていきたい。

・可燃ゴミで未回収はこのところ全然ない。残されているのは資源ゴミ。名前を書けば、誰が出しているのか啓蒙できると思う。名前を書くのは大賛成だし、是非やってもらいたい。区で分けるのではなく、深瀬自治会全域でやれば皆がルールを守って住み良い深瀬になると思う。
→ 環境対策課：市でお手伝いできることを1点言うと、分別できていないために残されているゴミというのが原因なので、分別していただくことの周知については、今日お配りした冊子を全家庭に配る、ということもお手伝いするし、集積所に分別について啓発し直すために大きな看板を貼ることも可能。相談いただいたうえで協力できることはしていく。全部地元というよりは、啓発については市も今後力をいれていくし、協力もしていくのでまたご連絡をください。

・他の地区ではそういう問題は起きていないのか。
→ 環境対策課：他の地区でもあるが、書いたり書いてなかったりはその地区の判断による。それは自分の知っている地域のことなので、市内のどこまでの範囲でできているかは把握できていない。分別でひどいゴミが大量に残されていて、管理者一人では難しいとなれば、市に連絡をいただいたら市が状況をみて回収したりしている。

・名前を書く書かないはあるが、書かれてないゴミが残された時に、市がプライバシーの問題で名前を書かないことを認めている場合、書かれてないゴミを開けて持ち主を特定することは、プライバシーの問題にはならないのか。
→ 環境対策課：自分たちの中では、分別できていないゴミ袋に例えばピンが入っていた、それを探るなかで名前が見えたということについては、地域のステーションを利用している方のことなので、そこに対しては見て名前がわかったらその対応は地元でしていただいて構わないと考えている。

・構わないじゃなくて、プライバシーの問題は起らないのか。
→ 環境対策課：そこであがるケースはないし、他の事例から言うと、それがたまたま人がわかって、言って直していただいたケースもある。

・そこはプライバシーのことは心配せずに、残ったゴミ袋は開けて対応していくということは。
→ 環境対策課：分別の過程で名前が見えたという、わかるものがあつたということ。ゴミを出すということがそういうことを了承していると見なしてもらっていい。

・残ったゴミを開けて見るのがプライバシー云々と言うと、それを見ないようにしようとすると市からもらった袋に入れて出すしかない。誰が出しているかわかったら、その人に言って、分別できてない、集めてくれてないので気を付けてくれと言うことはできるが、そうしないとそれでよかったんだと思って次も同じことをする。現場でそういうことがないようにするにはどうすればいいかを考えるべきで、プライバシー云々というそれまでの話で、話が進まない。開けてみて名前を探るのが一つの目的でもある。その人に言って、これがあるので収集してくれない、としないといけない。

→ 環境対策課：名前を探るのがメインなのか、分別した時に発見されたのとニュアンスが違うと思う。

・役所なのでそれなりの言い分しかできないのはわかるが、プライバシーという何事もできない。

・今日決めないといけないことでもないのでは。来てない人もいるし。ゴミを捨てた時点で所有権を放棄したという見方もあると思う。それが見られたのでプライバシーというのは法律的にはどうかかわからないがおかしい話と思う。回覧板に、「変なゴミがあったら中を改めさせてもらって所有者を特定させてもらいます」とまず回して、それから決めていかないと、今の町内会長も来てないし、何パーセントしかいない人数で決めていけないので、どっちにするかというのを回したり、告知をゴミステーションに貼って知らせるようにしたらいいと思う。知らない人もいると思うし、悪気なしに間違えて出したりした人もいると思う。変なゴミがあった場合は、調べさせてもらおうと知らせて、それから今年中にどうするか決めるほうがいいと思う。

・出前講座は、決める場ではない。

濱田市長：改めまして、おはようございます。今年もお声がけいただきありがとうございます。先ほど来のお話を聞いて、まずは当番を引き受けてやっていただいている皆様にお礼申し上げます。ありがとうございます。この暑い季節もそうだし、いろんな人がかかると違う働き方であったり、考え方・生き方の中で、それでも生活していく中において、ゴミは必ず出るものだし、それを誰かが集めて、片付けることをしていただいている。そのおかげで我々は日常生活が送れていることは、改めて自覚したところですし、そういう話をその場で率直に話し合える場がある深淵地区はありがたいことである。

野市の新興住宅地に行くと、この話し合えにくい地域もあると聞いているし、町内会すらないような地区もある中で、顔が見える関係でお願いし合える地区である深淵もそうだし、そういう地区をどれくらい特に野市に増やしていけるかが我々の大きな課題。

参考にさせていただきたいし、そういう意味で今年度、去年のふらっと座談会が参考になったというのはありがたいし、今年度から南地区が月ごとに当番になるというふうに、一度にいろんなことが突然変わるのには難しいが、いろんな課題がある中で、それぞれが知恵を絞って今年度は月ごとにやっていこう。例えば、今年度の終わりに1年を振り返って、来年度どうやってやっていくかを話し合える場所が大切だと思うし、大切にしていきたいので、お互いがわかち合ってわかり合える地区をつくっていく。深淵地区で今まで取り組んできたこと、名前についても紆余曲折してそれぞれの責任感を表す形が名前を書くことであったのではと思うので、これまでみんなで知恵を絞った結果を大切にしながらも新しい時代にできることを、この場で決定するのは、参加してない人もいるので、各町内会や自治会で、節目節目で話をさせていただければありがたい。

特に野市は、新たに入ってくる人がたくさんいる中で、そういう人にこれまで深淵地区で培ってきたことをどう理解してもらおうかということをお我々はしていかなければならないので、環境対策課も地域支援課もそうだが、担当が実際にこういう場に出た意見を知る機会がないので、貴重な機会を今日いただいたと思う。今日の意見を参考にして次の出前講座で同じ話をする、いろんな会合で話をしあって、苦労されている方がどう思うか、同時に全体としてどう広げていくか、大きな参考になる話をいただいたと思う。また、都度都度、環境対策課に相談いただければ、また直接私にいただければできることを一緒に考えていきたい。ここで考えたことは、深淵地区だけの問題ではなく、野市町の問題であり香南市の問題でもあるので、一緒に考えていかに広めていけるかだと思っている。今日、深淵の皆様の努力、逆に言うところまで仕上げられてきたすこさを、これからどう新しい団地に入ってくる人たちにつなげていくかと我々が考えていくべき大きな課題を与えていただいたことにもお礼を申し上げます。感想だけになったが、何でも結構なので、時間の許す限り聞かせていただきたい。よろしくお願いします。

・新しくできた団地でゴミ出しについての出前講座をすればどうか。

濱田市長：町内会さえない地区がたくさんあるのが実状。今年度から、担当が各家庭を回って町内会に入ってもらい、作ってもらいをお願いをしている。それと合わせて町内会を作ってもらい大きな目的の1つがゴミの問題というのが大きな課題なので、例えば10戸、20戸ぐらいのミニ団地を建ててもゴミステーションは作らなければならなくて、そのルールは最低限の形は伝えられるが、ちゃんと見て回ってない人もたくさんいるはずだし、そうすると全然関係なく、他の市でどうだったというルールをされて、深淵のようなちゃんとやってこられた方々に本当に申し訳ない状況になっているところもあると聞いている。まずは町内会に入ってもらい、作ってもらい、それと合わせてゴミの出し方や管理の仕方を徹底していきたい。

・先ほど渡したゴミについての回覧を市長にも見てもらってほしい。

→ 環境対策課：共有する。

・深淵の生活道は状態が悪い。上段はいいが、下段は悪い。帰りに見てほしい。西に川と、木がたくさんある。木が落ちてきているので水利関係の人に言っているが、お金がないと言うので、高所作業車を使って伐ってほしい。

→ 建設課(村山課長)：市道の上に木が張り出してきているのは野市だけでなく、とても多い。緊急性があるところ、道の上などで車が当たるところは、所有者に確認のうえ市が伐る。余裕がある所については、所有権があるので手紙で「伐ってください」「何かあったら相談ください」としている。連絡をくれて刈れないとか事情がある場合、市が伐ることもある。数が多く高所作業車もないので厳しい状況。自分も現場や水利関係者を知っているので、話をし、いい方向でできればと思う。伐って処理ができない場合は、連絡いただければ建設課が取りに行く。また、道路に穴が空いているなどの場合、電話いただければ課員が現場を確認し、できるだけ対応する。

・樹木を自分たちで伐る場合、庭木の場合もそうだが、昔は庭で焼いていたが、野焼き禁止で燃えるゴミに出してください、というので小さくしている。ゴミ冊子には3cmと書いてあるが、なぜ3cmなのか。3cm以上はだめか。

→ 環境対策課：基準として3cmとしているが、太さの目安なのでゴミ袋に入る大きさとしている。野焼きは禁止しているが、農家の方については禁止ではなく、十分消火ができる状況で、また煙が他の人の迷惑にならないなかでするなら大丈夫。できたら消防に届け出をしてほしい。通りがかりの人が見て通報があれば、自分たちが出向いてやめるようお伝えする。

・農家でないと庭木や家庭菜園で出たものを焼くのは消防に連絡すれば構わないのか。

→ 環境対策課：量にも依るが、通報されたらだめ。

・枝の太さの目安3cmは袋に入れればいいということだが、ゴミ収集車の巻き込む能力に依るものではないか。

→ 環境対策課：それも確かにある。木の硬さにも依るかもしれない。

【三宝山の開発について】

・三宝山の開発について、1年延長がされているが、開発許可はそんなに延長されるものか。
→ 村山課長:市へ造成だけの申請となっている。何かを建てるとなれば、面積により県になるが、今のところ詳しい情報が自分にはない状況。
・山の形が変わるほどの開発はいかがなものか。
→ 市長:我々が関与できないが、慎重に見ている。シンボリックな場所でもあるので、あの場所自体の開発というより、付近に住んでいる方や関連の農家の方は心配をしている。いろんな最近の災害があるなかで心配する声も大きいので、我々としては安全面や周りの方々の不安を極力解消してもらおう努めているし、関係者には話をさせてもらっている。とても多くの方が心配している状況だと思う。

【高齢者の移動手段の確保について】

・高齢者の足の確保について。免許返納したら、深淵では日常の買い物も不便。市バスは週2回が今は予約式タクシーになっているが、使い勝手が悪い。何か他の方法を考えているか。
→ 市長:3年ごとに料金やルート、方法を公共交通会議にかけて変えている。去年からタクシーを導入している。現在、利用はしてもらっているが、その先は、まだ私の中での考えだが、例えば、ライドシェアとか、今は都会限定のタクシー業者救済のことになっていて使い勝手が悪いが、本来はもっと違う形でタクシー業者じゃない人が参入して、海外のように誰でもができ、空いた時間にアプリに登録した方から近くの方が乗っていく。そしてドライバー自身も評価され、人気のある人はいろんなことができることもある。
もう1つ国の実証実験で進んでいるのが自動運転。公共交通の問題点は、1つは運転手不足、そして、空でバスを走らせることでガソリン代など維持費がかかっている。それを解消するには少子高齢化の中において、例えば団塊の世代の方が来年すべて75歳になると、今の75歳は元気な方が多いので、その方たちがライドシェア的なことに参入し、空いた時間に運転ができるようになるとか、県外で実証されている無人バスが効率的に運行できるようになればいいと思っている。香南市以外はもっと深刻。そういうことすらできない土壌になりつつある。若い人もいないし、高齢者の数も減っており人口が激減している地区では、それすら導入することがおそらく厳しくなる。香南市は中高年もいるので、そういう方の力を借りられることができないか考えている。すぐにはいいかいないが、5~10年のうちに新たな取り組みを始めていかないと。現状はわかっているので、まだ具体的にはないが、新しいことをやっていきたい。

・ライドシェアとか自動運転の話があったが、高齢者は使うのが難しい。アプリで予約自体が難しい。自動運転も、運転手のいない車に乗るのが不安。タクシーを安く利用できる制度はないか。高知空港からのいち駅まで500円でいけるワンコインタクシーのようなものか。
→ 市長:大事なことで、市でもデジタル化が進んでいく中で使えない人もいる。60代ぐらいまでならスマホを使っての対応をお願いできるかもしれないが、70代から上の方には、デジタルに対応するまでの期間は、直接的な補助が効果的ではないかと思うので、両輪で考えるようにしたい。

【高齢者の体力維持について】

・高齢者の体力維持に、高齢者用ジムをやってもらえないか。青少年センターに行っているが、最近高齢者が多い。高齢者の気軽に行けるジムの希望・要望が多いと感じる。センターで話を聞いたらスペースもあるし、増やしてもらえたらという話であった。一から箱ものを作るのは大変だが、高齢者用のジムをやってもらえたらと思う。
→ 市長:60~70代の方の健康意識が高い。自分も朝、走っているが、健康志向が高まっていると感じる。健康寿命を高めることが大事。特に男性が健康寿命がなかなかというのがある。高齢者介護課がお達者クラブなど運営しているが、そこに行く前のジムとか自力でいろんなことにチャレンジできる方を応援していくのは、その先にできるだけ行かない方法として大事だと思うので、高齢者介護課を含めてしっかりと考えていきたい。

【その他・まとめ】

・今は市外にいるが、いずれは帰って来たい。子どもの時から20年以上この地区に暮らしてきて、昔から続いてきた伝統やゴミ出しもそうだが、自分が小さい時からやってきたことも結構あって、続けていくものは続けていく。今すごく感じるのは、新しい人が深淵や近くに増えていて、新しい家もできている。若い人たちは考えが難しい人も結構いると思うので、それに対応する柔軟な考えを、町内会や自治会で解決できればいいが、市にも入ってもらって、より良い深淵地区になったらいいなと今日の意見交換を通じて感じた。

市長:Uターンが多いのが香南市の強み。自分自身もUターンで幼少期のいい思い出というか地域への愛が強かった。Uターン者が、地域に新しく他から入って来る人との橋渡し、パイプ役になってもらえたらすごく思う。人口減少対策として、今までは県全体で移住者を重視していたが、現状を見るとUターン者が帰って来やすいまちづくりで、そういうまちにしていこうと、逆に言うと、新たな人が入って来た時に、例えば子どもができればPTAや地域の活動を通じて友達同士になった時に、昔からある野市のルールや良さを伝えてそこから広がっていく。かつて私が5歳の時にみどり野団地に引越して来て、当時の野市東小学校区はみどり野の周りは富家、中ノ村、土居があって、ある種野市の東の深淵地区があるところにみどり野ができて、上手く融合ができたと思っているし、それも新たな団地の方々と作っていただき、新しく入って来る人と上手く合わさっていくことによって、まちが活気ついていければと思う。帰って来たい方が帰って来れるまちをつくってほしい。先輩方から守るべきものを受け継いでいかなければいけないので、プレッシャーじゃなく、楽しみに帰って来れるようなまちにしていきたい。

副市長:ゴミの話で苦労されている。ここだけではなく、他の地区もそうだと思うが。市で名前を書くのが徹底できればいいが、いつのころからかそうじゃなくなって、基本的には各地域という形になっているということで、多分、都市部とかで若い女性がゴミ袋とかでストーカー被害にあったりということがあって、おそらく自治体で名前を書くのが難しいとなったのではないかと。ただ、話を聞いていると、可燃ゴミより資源ゴミが残っていると、資源ゴミだけ名前を書いてもらうとか。若い女性の意見も聞きながら徹底していくとか議論していただけたらと思う。ゴミ当番の人は大変で苦労されていると思うが、ずっと名前を書けというのではない、という意見もあったので、なぜ市役所で徹底できていないかも踏まえながら議論いただけたらと思う。よろしくお祈りします。

市長：最後に、合併してもうすぐ20年になる。5つのまちが合併するのは当時こっぴで、大変だったと思う。合併の経緯があつて、おそらくいろんなことが香南市として整理することができなくて、まんべんなく5つの町にずっと続いてきたことがあつて、現在に至っている。そこで全体の香南市としてとらえると、野市町が新しい人がたくさん入つて来て発展していく。同時に東日本大震災の後の津波浸水想定区域ができてしまったので、更に野市町に極集中みたいなことがある。その中で、昨年度から公共施設マネジメントを始めたが、5つの町がそのまま同じようなものを持っていて、これまで持ち続けていたが、使わないものはやめていって、1つにしていくとか、今使っているもの、使っていないもの、これから要るもの、要らないものを整理しないと、今までは合併特例債とか、人が増えてきたので、他の地区と比べると差し迫った危機感があまりなかったが、人口が減っていく中、物価の高騰などで市の予算で今まで通りのことができなくなっていく、だからといって全部やめるのではなく、これからも市としてまちを維持していくために現実を見つめなおすことを始めた。こういうことを言うと、例えば、特に沿岸部や野市以外の方からすると、いろんなものがなくなっていくという拒否感を持たれることがある。結果としてそうなるかもしれないが、今やるべきことは私たちが本当に今どういう状況であるかを知りたいし、それを知らないで次々と課題ができていくのに予算を潤沢に何でもかんでもやっていくという時代ではない。今はまだ大丈夫。これから何年かは香南市は大丈夫。高知県の中でも1番いいまちと他の市町村長に会つても自信を持って言う。これからの子どもたちにいいまちを残していきたい。そのためになすべきことをしっかりと見つめなおそうということで公共施設マネジメントを始めたし、学校の規模適正化も教育委員会がやっているが、教育的なことと、安心安全な教育環境を分けて考えている。2年後の合併20年の時には一定新たな香南市を作るためのスタートラインに立ちたい。まちづくりやゴミのことも全部繋がっていくことなので、いろんなところで聞いた時に、自分が言っていたことをわかっていたらきたい。また、ふらつと座談会などに呼んでいただけると、都度都度お話をさせていただき、こういう機会が自分にとって、とても大事で、ゴミのことなど、地域の方が何に困っているのか直接聞ける大切な場なので、これからもよろしくお願ひします。